

## 平成 15 年 2 月期第 1 四半期の業績等の概況

会 社 名 株式会社 スギ薬局  
 (コード番号 7649 東証一部・名証一部・大証NJ)  
 本 社 所 在 地 愛知県安城市二本木町二ツ池 3 3 番地 5  
 問 合 せ 先 責任者役職名 取締役管理本部長  
 氏名 増田 泰朗  
 TEL ( 0566 ) 73 - 6300

## 1. 業 績

(百万円未満切捨、小数第 1 位未満を四捨五入)

(1) 平成 15 年 2 月期第 1 四半期 (平成 14 年 3 月 1 日 ~ 平成 14 年 5 月 31 日) の業績

	15 年 2 月期第 1 四半期 (当四半期)	対前年同 期増減率	14 年 2 月期第 1 四半期 (前年同四半期)	参 考 前期 (通期)
売 上 高	15,005 百万円	24.5%	12,050 百万円	52,414 百万円
営業利益	909	7.4	846	3,418
経常利益	1,012	7.2	944	3,829

(2) 部門別の売上高内訳

	15 年 2 月期第 1 四半期 (当四半期)		対前年同 期増減率 %	14 年 2 月期第 1 四半期 (前年同四半期)		参 考 前期 (通期)	
	金 額 百万円	構成比 %		金 額 百万円	構成比 %	金額 百万円	構成比 %
調剤	715	4.8	22.0	586	4.9	2,398	4.6
ヘルスケア	4,922	32.8	24.8	3,944	32.7	16,997	32.4
ビューティケア	3,825	25.5	27.6	2,997	24.9	13,087	25.0
ホームケア	3,166	21.1	23.2	2,571	21.3	11,547	22.0
ハビーカー	1,047	7.0	5.6	992	8.2	4,019	7.7
その他	1,233	8.2	40.8	876	7.3	4,026	7.7
小計	14,910	99.4	24.6	11,967	99.3	52,077	99.4
その他収入	95	0.6	15.1	82	0.7	337	0.6
合 計	15,005	100.0	24.5	12,050	100.0	52,414	100.0

(3) 主な資産・負債の変動について

項 目	15 年 2 月期第 1 四半期	増減額	前期末
(資 産)	百万円	百万円	百万円
現金及び預金	10,102	386	9,715
商品	7,560	901	6,658
(負 債)			
買掛金	8,077	1,567	6,510
未払法人税等	484	582	1,066

(注) 当四半期に係る数値について、公認会計士又は監査法人の監査を受けておりません。

## 2. 業績の概況

わが国の経済は、5月度の政府の経済報告において「景気底入れ宣言」が発表されたにもかかわらず、先行きについては、依然として厳しい雇用環境や所得環境等を考えると、非常に不透明な状況が続いております。

小売業においても、価格競争の恒常化による単価下落も一段落しつつある一方、勝ち組みと言われた企業においても、以前ほどの成長は見られず、既存店においては前年売上実績割れが続いている状況です。

しかし、ドラッグストア業界においては、大手ドラッグストアが積極的な出店計画を発表したり、提携企業同士が双方の物流網を活用し、出店ペースを加速するなど一段と出店競争が激化する状況となっております。

当社の営業地域であります中京地区におきましても、デフレ傾向による一品単価の低下は続いており、消費マインドの低下は否めません。しかしながら、客単価の低下の幅が小さくなりつつあります。一方、平成14年4月に実施された調剤報酬改訂の影響は、予想の範囲に留まっております。こうした中で、前期に引き続き積極的な出店を続けており、当四半期には6店舗を新規出店し、計143店舗となりました。

### (売上高)

当四半期の売上高は15,005百万円(前年同四半期比24.5%増、2,955百万円増)となりました。これは、6店舗の新規出店効果と既存店売上の伸び(表1)が起因しているものと考えております。また、来店客数も順調に増加(来店客数7,107千人(前年同四半期比28.1%増、1,559千人増))しております。

主力部門(調剤、ヘルスケア、ビューティケア)の売上高構成比は、63.1%となり、前年同四半期の62.5%から0.6ポイント上昇しております。

(表1) 売上高の対前年同月比推移(%)

	平成14年2月期										平成15年2月期		
	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
全 店	134.0	128.3	132.2	135.3	122.4	129.9	133.9	126.1	131.8	125.9	117.9	129.0	126.9
既存店	103.8	99.2	107.0	109.8	100.6	106.9	109.2	103.0	110.0	104.4	98.5	107.4	109.1

なお、既存店は開店後13ヶ月を経過した店舗を対象に算出しており、対象店舗は変動いたします。

### (売上原価および売上総利益)

当四半期の売上原価は10,777百万円(前年同四半期比23.5%増、2,047百万円増)、売上総利益は4,227百万円(前年同四半期比27.3%増、907百万円増)となりました。売上総利益率は28.2%と前年同四半期に比べ0.6ポイント改善いたしました。

調剤は、平成14年4月の調剤報酬改訂の影響により、売上総利益率が低下しました。また、ヘルスケアも前年同四半期に比べ花粉症が少なかったために売上総利益率が低下しました。他方、ビューティケアは、売上高の伸びと共に売上総利益率が改善しております。

### (販売費および一般管理費)

当四半期の販管費は3,318百万円(前年同四半期比34.2%増、845百万円増)となりました。売上高に対する販管費の比率は22.1%と前年同四半期に比べ1.6ポイント増加いたしました。これは、ポイントカード会員のデータ活用によるチラシ・DM費用等の削減により広告宣伝費の伸びを抑制したものの、新卒を中心とした社員の前倒し採用による給与手当の増加と店舗の大型化により賃借料が増加したことが主な要因です。

### (営業利益)

当四半期の営業利益は909百万円(前年同四半期比7.4%増、62百万円増)となりました。当四半期の営業利益率は、売上総利益率が改善したものの販管費比率の増加により、6.1%と前年同四半期より1.0ポイント減少いたしました。

### (その他収益および費用)

当四半期におけるその他収益に関しましては、営業外収益が110百万円(前年同四半期比4.6%増、4百万円増)となりました。営業外収益の主なものは受取手数料52百万円、広告用器具受贈益26百万円であります。

営業外費用は7百万円(前年同四半期比13.6%減、1百万円減)となりました。

### (当期純利益)

当四半期の当期純利益は541百万円(前年同四半期比14.4%増、68百万円増)となりました。売上高に対する比率は3.6%と前年同四半期に比べ0.3ポイント低下いたしました。

なお、当四半期に特別損失として固定資産除却損12百万円およびその他特別損失12百万円を計上しております。これは、レセプト処理用コンピューター(レセコン)の機種統一による旧機種の除却と百石店(愛知県安城市。平成2年11月開店)の改築・増床に伴う旧設備の除却等によります。

### (資産、負債、資本)

流動資産は19,561百万円(前期末比7.9%増、1,428百万円増)となりました。現金及び預金は10,102百万円(前期末比4.0%増、386百万円増加)となりました。また、たな卸資産は6店舗の新規出店のため商品在庫が増加したこともあり、6,900百万円(前期末比13.4%増、901百万円増)となりました。

固定資産は7,293百万円(前期末比3.8%増、264百万円増)となりました。これは新規出店6店舗分の建物及び差入保証金の増加が主なものです。

流動負債は11,401百万円(前期末比12.4%増、1,256百万円増)となりました。売上高の増加に伴い、買掛金が8,077百万円(前期末比24.1%増、1,567百万円増)となりました。

固定負債は656百万円(前期末比3.4%増、21百万円増)となりました。

資本の部の合計は14,797百万円(前期末比2.9%増、415百万円増)となりました。5月13日に開催された第20回定時株主総会決議の利益処分により、別途積立金が1,600百万円増加しております。以上の結果総資産は26,854百万円(前期末比6.7%増、1,693百万円増)となりました。

### (出店状況)

当四半期の出店状況は次の通りです。

(表2) 当四半期の出店店舗(開店日と所在地)

開店年月日	店名	所在地
平成14年3月20日	蒲郡北店	愛知県蒲郡市
平成14年3月27日	西条店	三重県鈴鹿市
平成14年4月3日	砂田橋店	名古屋市東区
平成14年4月26日	メッツ大曾根店	名古屋市東区
平成14年5月29日	松本店	愛知県犬山市
平成14年5月29日	鳴海店	名古屋市緑区

また、当四半期には、百石店(愛知県安城市)の改築・増床を実施いたしました。(平成14年5月15日 リニューアルオープン)

## (キャッシュフロー)

当四半期の現金及び現金同等物は、前期末と比較して906百万円増加し、8,947百万円となりました。

営業活動の結果得られた資金は1,013百万円(前年同四半期比28.3%増)であり、前年同四半期に比べ223百万円増加しました。これは、主に、たな卸資産の増加額が901百万円(前年同四半期比206百万円減)に留まり、仕入債務の増加額が1,567百万円(前年同四半期比76百万円増)、法人税等の支払額が1,075百万円(前年同四半期比174百万円増)となったことによります。

投資活動の結果得られた資金は1百万円となりました。これは、主に、定期預金・積金の払出による収入から、定期預金・積金の預入および有価証券の取得による支出を控除した収入が420百万円(前年同四半期比82百万円増)と、新規6店舗の固定資産の取得および差入保証金による支出395百万円(前年同四半期比558百万円減)を上回ったためであります。

財務活動の結果使用した資金は、配当金の支払いによる108百万円(前年同四半期比142百万円減)でした。

## 3. 当期の見通し

新規店舗の出店は、15年2月期通期で40店舗を計画しておりますが、その4分の1を終えた当四半期は6店舗に留まりました。しかし、既存店は、客単価および一品単価の低下がほとんど無く、また、来店客の伸びにより、売上高の伸びが計画より高くなっております。このため、当四半期における出店の遅れは、当四半期の業績には影響がありませんでした。

また、15年2月期中間期については、仮に新規店舗の出店の遅れを取り戻せなくても、業績の見通し(\*1)にはほとんど影響がないと考えております。

15年2月期通期については、現時点での今期の業績見通し(\*2)に変更はございません。

( \*1 ) 15年2月期中間期の業績予想

売上高31,275百万円、経常利益2,180百万円、当期純利益1,230百万円。

( \*2 ) 15年2月期通期の業績予想

売上高65,000百万円、経常利益4,365百万円、当期純利益2,466百万円。

(表3) 当四半期の実績と計画値

	15年2月期第1四半期実績 (当四半期実績)	15年2月期第1四半期計画 (当四半期計画)	達成率
売上高	15,005百万円	14,573百万円	103.0%
営業利益	909百万円	831百万円	109.3%
経常利益	1,012百万円	918百万円	110.3%

## (注意事項)

業績の見通しにつきましては、当社が現時点で合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は見通しと大きく異なることがあります。

その要因のうち、主なものは以下のとおりです。

- 当社営業地域の経済状況の急激な変動
- 薬事法・大規模店舗立地法等の各種規制の大幅な変更
- 薬剤師有資格者の労働市場における需給関係の急激な変動 など